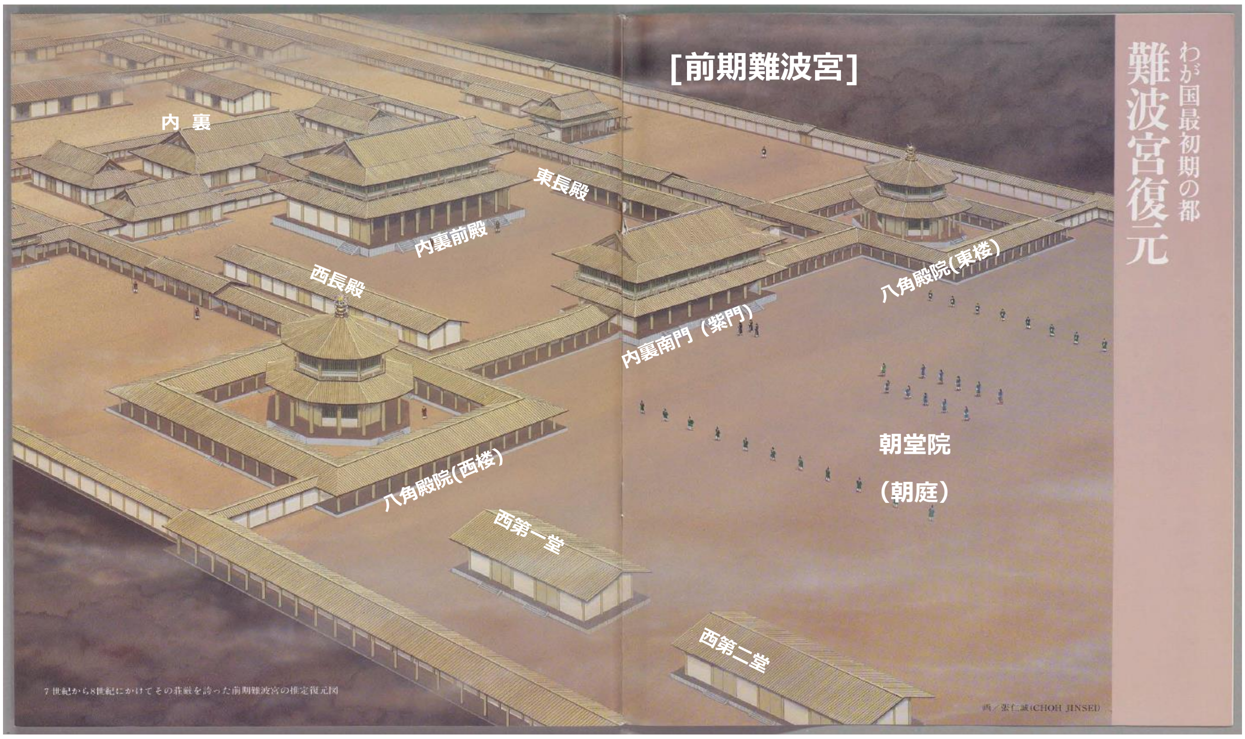
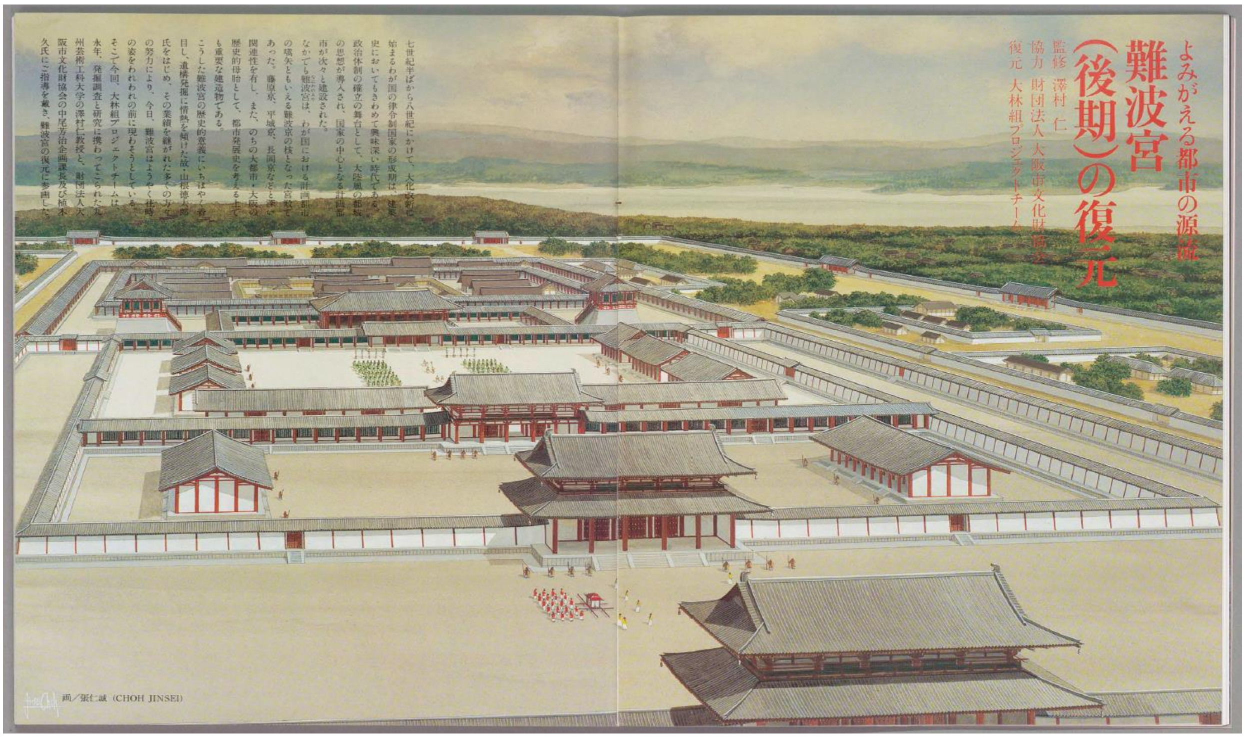

[前期難波宮]
内裏
東長殿
内裏前殿
西長殿
八角殿院(東楼)
内裏南門（紫門）
朝堂院
（朝庭）
八角殿院(西楼)
西第一堂
西第二堂

わが国最初期の都

難波宮復元

7世紀から8世紀にかけてその荘厳を誇った前期難波宮の推定復元図

画／張仁誠(CHOH JINSEI)



よみがえる都市の源流

難波宮（後期）の復元

監修　澤村 仁
協力　財団法人 大阪市文化財協会
復元　大林組プロジェクトチーム

七世紀半ばから八世紀にかけて、大化改新に始まるわが国の律令制国家の形成期は、建築史においてもきわめて興味深い時代である。政治体制の確立の舞台として、大陸風の都城の思想が導入され、国家の中心となる計画都市が次々と建設された。

なかでも難波宮は、わが国における計画都市の嚆矢ともいえる難波京の核となった宮殿であった。藤原京、平城京、長岡京などと深い関連性を有し、また、のちの大都市・大阪の歴史的母胎として、都市発展史を考える上でも重要な建造物である。

こうした難波宮の歴史的意義にいちはやく着目し、遺構発掘に情熱を傾けた故・山根徳太郎氏をはじめ、その業績を継がれた多くの方々の努力により、今日、難波宮はようやく往時の姿をわれわれの前に現わそうとしている。

そこで今回、大林組プロジェクトチームは、永年、発掘調査と研究に携わってこられた九州芸術工科大学の澤村仁教授と、財団法人大阪市文化財協会の中尾芳治企画課長及び植木久氏にご指導を戴き、難波宮の復元に参画した。

画／張仁誠（CHOH JINSEI）